

新庁舎建設かわら版

～特別号～

発行：各務原市企画総務部管財課
 電話：058138311619（直通）
 市ウェブサイト：http://www.city.kakamigahara.lg.jp/

市民の皆さんとともに「新庁舎建設」を進めています！

市民の皆さんとの「対話」でつくる新庁舎

新庁舎建設事業は、市民ワークショップ、障がいのある方々とのユニバーサルデザイン意見交換会、まちづくりミーティング、各種イベントでのパネル展示、出前講座、パブリックコメント（意見募集）など、市民の皆さんとの「対話」の機会を設け、多くのご意見やご提案をいただきながら進めています。

代表企業（日本設計）の技術提案書の一部をご紹介します

市では、新庁舎建設の基本設計について、「日本設計・大建設・Meets設計工房設計共同企業体」と業務委託契約を締結しました。設計者の選定では、技術提案書の展示・アンケートの実施、公開プレゼンテーションの開催など、市民参加と透明性の確保に努めました。「市民の誇りになる新庁舎」を指し、平成30年2月まで基本設計に取り組みます。

「ものづくりの活力と「おもてなし」の心で「まち」をつなぎ、市民の誇りになる新庁舎

・那加メインロード（旧中山道）に面して「庁舎棟」を配置し、宿場町の歴史を継承し



新庁舎タウンワークショップ



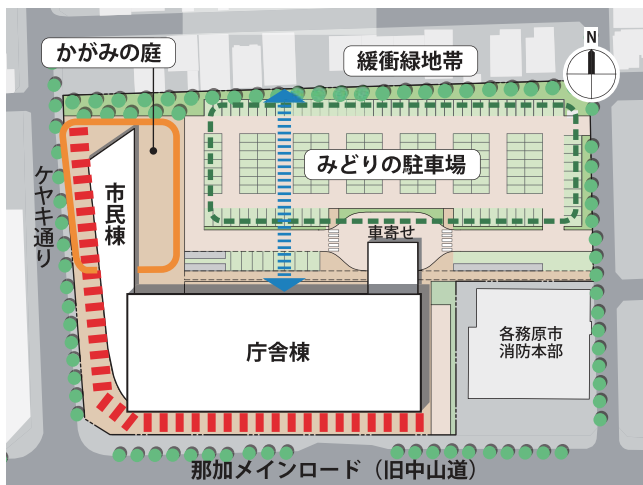
まちづくりミーティング



イベントでのパネル展示



ユニバーサルデザイン意見交換会



外観イメージと配置イメージ

※設計者選定における提案であり、具体的な設計やデザイン等は、設計者と協議しながら決定していきます。

事業費を最小限に抑えた建替え計画

工事期間中の市民サービスのあり方、建設コストや移転計画等、様々な視点から事業全体を見据えた以下の3つのポイントとした合理的な建替え計画とします。

●仮設庁舎なし

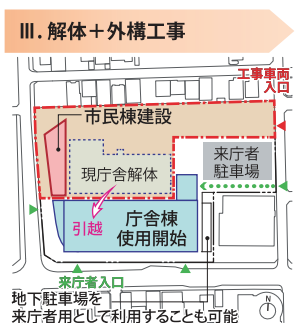
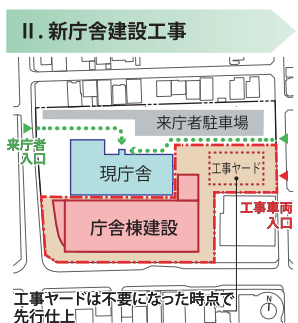
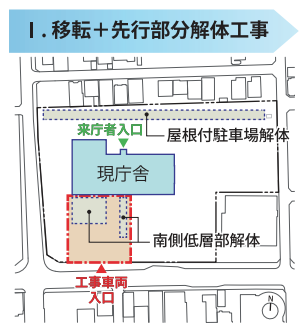
仮設庁舎にかかる財政負担を無くし、駐車場を確保しながら市民サービスが現庁舎で可能な計画

●既存庁舎先行部分解体

本庁舎の南側低層部を先行解体することで、新しい庁舎を整形でコンパクトにする計画

●最小限の移転

大規模な移転は新築工事完了後のみとし、事業費の抑制に配慮



市役所本庁舎は「耐震性」に問題があります

平成25年度に行った本庁舎の耐震診断では、全ての階で耐震性能が不足しており、「大規模地震（震度6.7）で倒壊又は崩壊する危険性が高い」との結果が出ました。

本庁舎が担う役割とは

・本庁舎は、様々な市民サービスや行政事務、議会機能を担う、市政の中心的な拠点庁舎です。
・災害時は、市民サービスの継続とともに、災害対策本部が設置される最重要の防災拠点です。

災害時の役割

災害対策本部
災害対応窓口
通常時の役割

通常時の役割

市民サービス
行政事務
議会機能

本庁舎が被災すると… これまでの震災事例から考える

① 福島県須賀川市 (東日本大震災)

・震度6強の揺れで、本庁舎は損壊し、使用不能となりました。

・何の設備もない駐車場に災害対策本部を設置し、被災状況の把握や市民への情報提供などの災害対応に大きな支障となりました。



被災した須賀川市役所
(柱のせん断)

② 熊本県益城町 (熊本地震)

・益城町役場は、耐震補強された庁舎が損壊し、使用不能となりました。

・り災証明の発行など市民生活の再建に必要なサービスが停止しました。
・現在、庁舎機能は複数の施設に分散し、耐震補強された

現庁舎は建て替えられる方針です。

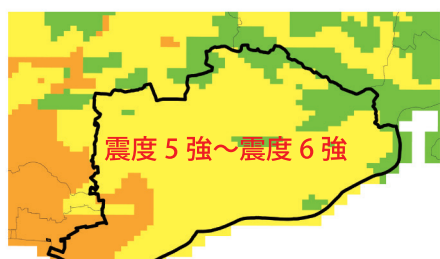
熊本地震では、熊本県宇土市や益城町など5市町の庁舎が損壊により使用不能となり、全国的に、災害時の拠点となる自治体庁舎の耐震化の遅れが浮き彫りとなりました。



耐震補強された益城町役場
(出典：日本地震工学会)

各務原市の地震のリスク

毎年のように、全国各地で大地震が発生しています。日本では、いつ、どこで大地震が発生しても不思議ではありません。
各務原市でも、南海トラフ巨大地震や活断層による地震の被害が想定されています。



養老一桑名一四日市断層帯地震の震度想定



南海トラフ巨大地震の震度想定

災害時に拠点となる本庁舎が使用不能となると、災害対応や市民生活の復旧・復興に重大な支障となります。本庁舎は、大地震後でも通常と変わらず機能している必要があります。

本庁舎が耐震性以外に抱える問題

設備などの老朽化

本庁舎は、築43年が経過しました。

老朽化した箇所や設備等も多く、今後も本庁舎を活用していくためには、多額の費用をかけて、大規模な改修や更新が必要です。

不十分なバリアフリー

本庁舎は、毎日、多くの方が様々な要件で利用しています。「今の庁舎は、障がい者には非常に使い勝手が悪い。



ユニバーサルデザイン意見交換会での視察風景

防災も重要だが、誰にも使いやすい庁舎でなければならぬ」という障がい者の方からのご意見もあるように、誰にとっても利用しやすい「ユニバーサルデザイン」への配慮が必要です。

新庁舎建設を推進します

本庁舎を耐震補強する方法もありますが、庁舎の内部にも多くの補強が必要となり、本庁舎の使い勝手はさらに悪くなってしまうと見えます。また、築43年が経過した本庁舎の耐用年数を考えたとき、長期的に見て、耐震補強と新庁舎建設の大きな費用の二重投資となってしまいます。

新庁舎建設は、本庁舎が抱えるさまざまな課題を抜本的に解決でき、将来の世代に大きな負担を先送りしません。

各務原市は、これからも、「市民の安全・安心な暮らしを支え、みんなにやさしい庁舎」を目指して、新庁舎建設事業を推進してまいります。